

# ASIA Indicators

定例経済指標レポート

## インドのインフレ率は高止まりしている(Asia Weekly (7/16~7/20))

～他のアジア諸国のインフレ率は低下基調が続いている～

発表日: 2012年7月23日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/16 (月)	(フィリピン) 5月海外労働者送金 (前年比)	+5.1%	—	+5.3%
	(インド) 6月卸売物価 (前年比)	+7.25%	+7.61%	+7.55%
7/17 (火)	(ニュージーランド) 4-6月消費者物価 (前年比)	+1.0%	+1.1%	+1.6%
	(シンガポール) 6月非石油輸出 (前年比)	+6.8%	+2.0%	+3.2%
7/18 (水)	(マレーシア) 6月消費者物価 (前年比)	+1.6%	+1.7%	+1.7%
	(インド) 6月消費者物価 (前年比)	+10.02%	—	+10.36%
7/19 (木)	(香港) 6月失業率 (季調済)	3.2%	3.3%	3.2%
7/20 (金)	(台湾) 6月輸出受注 (前年比)	▲2.62%	▲2.20%	▲3.04%

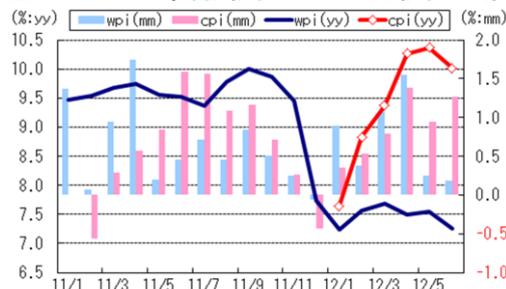
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### 【インド】 ～物価上昇率は前年比で減速する一方、価格転嫁などの影響で物価上昇圧力は煽っている～

16日に発表された6月の卸売物価は前年同月比+7.25%となり、前月(同+7.55%)から減速した。前月比も+0.18%と前月(同+0.24%)から上昇ペースは減速しており、原油市況の調整などを背景に鉱物資源価格が大幅に下落したことに加え、エネルギー価格が低下したことも影響している。足下の景気減速を反映してコア物価も減速している。ただし、食料品価格には依然上昇圧力が煽っていることから、必需品価格の高止まりによる実質購買力の下押しが懸念される。

18日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+10.02%となり、前月(同+10.36%)から減速した。一方、前月比は+1.27%と前月(同+0.94%)から上昇ペースが加速しており、食料品価格が依然として上昇していることに加え、過去の原油価格の上昇による価格転嫁の動きが浸透しており、エネルギー価格のみならず消費財価格全般に上昇圧力が煽っていることが影響している。さらに、都市部(前年同月比+10.44%)の伸びは地方部(同+9.74%)を上回っている。依然として物価上昇率は高止まりしていることを鑑みれば、金融当局が性急な金融緩和に動く可能性は低いと予想される。

図1 IN 消費者物価及び卸売物価の推移



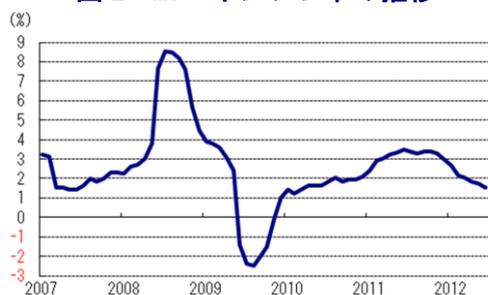
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【マレーシア】 ～エネルギー価格の調整やサービス価格の減速を反映してインフレ率は低下～

18日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+1.6%となり、前月(同+1.7%)から減速した。前月比も+0.10%と前月(同+0.19%)から上昇ペースが減速しており、食料品価格には依然上昇圧力が煽ってい

るものの、足下の原油市況の調整を反映してエネルギー価格が下落したことが影響している。足下の景気減速懸念の高まりを受けてサービス物価の上昇ペースも減速しており、先行きのインフレ率も比較的低水準で推移すると見込まれる。

図2 MY インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【シンガポール】 ～原油市況の調整やアジアの景気減速などを反映して輸出額に下押し圧力が掛かる～

17日に発表された6月の非石油輸出額は前年同月比+6.8%となり、前月(同+3.2%)から加速した。前月比も+6.7%と前月(同▲2.0%)から増加に転じており、アジア向けを中心に底堅い動きが続いている。原油輸出を含む総輸出額は前年同月比▲0.4%と前月(同+3.2%)から3ヶ月ぶりに前年を割り込んでおり、アジアの景気減速や原油市況の調整などを反映して原油輸出額が減少したことが影響した。一方の輸入額は前年同月比+6.2%と前月(同+6.0%)から加速したものの、前月比は▲2.8%と前月(同+4.7%)から減少に転じている。結果、貿易収支は+20.09億SGドルと前月(+20.01億SGドル)からわずかに黒字幅が拡大している。

図3 SG 輸出入(前年比)の推移

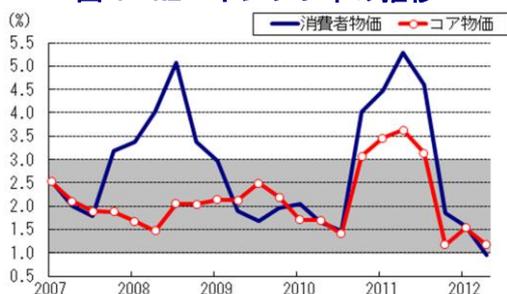


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【ニュージーランド】 ～商品市況の調整や足下の景気減速懸念を反映してインフレ率は一段と低下～

17日に発表された4-6月の消費者物価は前年同月比+1.0%となり、前期(同+1.6%)から減速した。前期比も+0.34%と前期(同+0.52%)から上昇ペースが鈍化しており、食料品価格の上昇が一服しているほか、世界経済の低迷による景気減速懸念や足下の原油市況の調整などを反映して物価全般に下落圧力が掛かっている。結果、コア物価も前年同期比+1.17%と前期(同+1.53%)から減速し、前期比も+0.18%と前期(同+0.45%)から鈍化している。金融当局は昨年春に、カンタベリー地震の復興を支援する観点から利下げを実施し、先月の定例会合においても10回連続で政策金利を過去最低の2.5%に据え置いている。1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率+4.66%と前期(同+1.75%)から加速し、堅調な景気が確認されており、年内いっぱいはいは現行水準で金利を据え置く可能性は高いものの、世界経済の低迷は同国経済に影響を及ぼすことも懸念される。国際金融市場が再び混乱する事態に陥った場合は、インフレ率の低下による金融緩和余地の拡大が利下げを後押しする可能性もあろう。

図4 NZ インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 NZ 政策金利の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [フィリピン] ～米国景気の不透明感が煽るが、堅調な移民送金は景気を下支えしている～

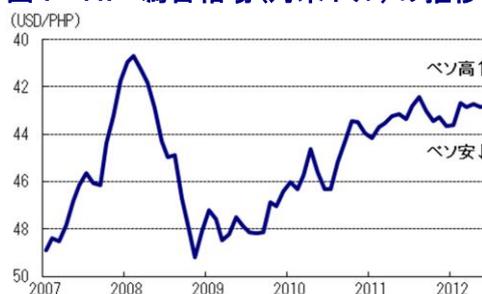
16日に発表された5月の海外労働者送金額は前年同月比+5.1%となり、前月(同+5.3%)から減速した。ただし、前月比は緩やかに増加しており、通貨ペソ高圧力が一服していることも背景にペソ建ベースでも増加するなど個人消費を下支えしている。流入額の多くを占める米国経済を巡っては、足下で不透明感が煽っているが、専門職の割合が比較的高いなど景気の影響を受けにくいことを鑑みれば、底堅い流入が続くと見込まれ、先行きの景気を下支えすると予想される。

図6 PH 海外労働者送金額の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 PH 為替相場(対米ドル)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [香港] ～足下の雇用は底堅いが、世界経済の減速は先行きの雇用調整圧力に繋がる懸念もある～

19日に発表された6月の失業率は3.2%となり、前月と同じであった。なお、労働者数は前年同月比+10.7万人と前月(同+10.5万人)から増加幅は拡大しているものの、世界経済の減速や欧州問題による国際金融市場の不透明感が煽っており、先行きは雇用環境の悪化が懸念される。足下では中国本土経済の減速により来訪者数に頭打ちの兆しが出ており、観光業関連に悪影響が懸念されるほか、金融取引の縮小は金融関連の雇用調整圧力に繋がることも予想される。

図8 HK 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 HK 来訪者数の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [台湾] ～アジア向けの輸出受注は底堅いが、電子機器などは低調であり、先行きの輸出の重石になるう～

20日に発表された6月の輸出受注は前年同月比▲2.62%となり、前月(同▲3.04%)からマイナス幅は縮小した。前月比も2ヶ月連続で増加しており、中国本土向けをはじめとするアジア向けの堅調さが下支えして

いる。ただし、主力の輸出品である電子機器などは依然低調に推移しており、先行きの輸出の重石になると見込まれる。

図 10 TW 輸出受注の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上